日本バプテスト連盟　全国壮年会連合

東京地方壮年連合通信 Vol. ６９

TOKYO　SOUNEN　RENGOU　TSUUSHIN　２０１６年３月５日

研修会特集

「この時代におけるバプテスト教会形成を考える」

2016 年 2 月 6 日（土）大久保バプテスト教会にて、日本バプテスト連盟宣教研究所　朴 思郁（パク サウク）所長を迎えて、東京地方壮年連合主催の第 20 回研修会が上記テーマで開催されました。今回は参加者との討論形式で行われ、18 教会 38 名の参加者があり活発な意見交換がなされました。限られた時間でしたが、良き学びの時が与えられました。今回の壮年連合通信では、研修会参加のお二人からの感想文を掲載させていただきました。研修会での朴先生からのレジュメを巻末に載せました。なお、席上献金 36,500 円は、長命ヶ丘教会を中心とする復興支援活動に送金いたしました。ありがとうございました。

東京連合壮年会研修会に参加して

川崎バプテスト教会（神奈川）　豊永義典（とよなが　よしのり）

朴思郁宣教研究所所長を講師として行なわれた「この時代におけるバプテスト教会形成を考える」と題する研修会に参加した。これまでも何回か神奈川からこの東京の研修会に参加させて頂いている。壮年会研修会は今回で２０回目とのこと。このところ我々がバプテストであることを強く意識したテーマが選ばれてきた。バプテストの歴史を学ぶなかで、バプテストが大切にしてきた事柄を再確認しつつ、私たちが今どんな時代を生きているのかを見渡すなかで、バプテスト教会でキリスト者として生きる壮年としてどういう役割を果たしていくべきかを考え続けている東京の壮年の仲間に敬意を表したいと思う。

今回朴先生が我々に問いかけられた内容は、レジュメの「おわりに」に書かれた以下の文に要約されると思う。

「バプテスト主義とは、ある特定のモデルを再現することではない。常に、聖書の本質に照らし合わせて、その時代に最も相応しい福音理解、教会のあり方を求めていくことがバプテスト主義であると思っている。そのためには、私

たちの生きる現代社会における問題点を峻別すること、そして変えられないもの、変えなければならないものを丁寧に見分けて対応していく知恵と勇気が求められる。」

先生は質疑応答のなかで、ここにまとめられた考え方を発信していくうえで「講壇の働き」が大切であることを語られた。私たちはそれぞれの教会で多くの場合、講壇の働きを牧師に委ねているが牧師が期待に充分応えていけるような環境を整え、支えていくことの大切さを思った。それこそが私たち壮年が担うべき働きだと思う。最初にこの研修会を継続してきた東京連合壮年会に敬意を表すると書いたが、私はこのような学びと取り組みが全国の壮年の働きへと展開されることを期待しているし、その中心的な役割を東京の壮年が果たして下さることを願っている。

全国の壮年は神学生奨学金献金を通して、伝道者養成の働きに参与しているが、壮年会活動の二本柱の片方の「教会形成を担う」の働きはまだ柱になり得ていないと感じている者の一人である。学びながら、批判的な対話を繰り返し、教会に取り入れ、また見直しをしていくという気の遠くなるようなプロセスであるが、その歩みそのもので私たち壮年は元気にされ、教会が元気になっていくのではないだろうか。

私が所属する川崎バプテスト教会は、2014 年度一年間無牧師を経験し、昨年４月に西南神学部を卒業された大野裕昭師を牧師として招聘して１年になろうとしている。これから数年をかけて礼拝をはじめ、教会の基本的なことがらの棚卸しをしようと考えている。その歩みのなかで、今後とも東京の壮年の方々と共に学び、対話を繰り返していきたいと願っている。

東京連合壮年会研修会に参加して

花野井バプテスト教会　佐藤　彬（さとう　あきら）

大久保バプテスト教会において催された、連盟宣教研究所長、朴思郁先生による「この時代におけるバプテスト教会形成を考える」と題した講演会に、この世に今生きるわたしたちが、バプテストとして神から命じられていることはどんなことなのかを知るうえでの参考にしたいと思い参加した次第です。

講演内容は、「私たちはどんな時代を生きているのか」、「今日におけるバプテストの在り方」、「バプテストのアイデンティティー」、「教会における式文の意味」、「朴先生のメッセージ」から成っています。

最初に、20 世紀は、政治的・経済的に欧米が世界の中心となっていたが、これからは、アジアなど他地域の台頭により、「脱中心」化が進むであろうこと、学問・文化の面では、それぞれの自由度が増し、「脱境界」化が進むであろうと

いう、今の世の大まかな状況やこれから進むべき道筋についてお話がありました。次に、連盟結成から 70 年が経って、戦後の政治、経済の影響を受けてきた教会が、冷戦時代以降の新自由主義、新冷戦体制下を生きるという新しいステージに入ったということを認識し、意識を改める必要があること、外国人も広く受け入れていく教会のグローバル化、コスモポリタニズムを目指す必要があること、また、今までの教会像、牧師像にとらわれず、「パラダイムの変換」を目指していくことが大切であることを学びました。このほか、「神学」することの意味と重要性、バプテストの特徴の一つである「批判的自己省察」や「個の自主的主体性の尊重」などについてもお話をいただきました。

終わりに、朴先生のメッセージをご紹介します。「バプテスト主義とは、ある特定のモデルを再現することではない。常に、聖書の本質に照らし合わせて、その時代に最も相応しい福音理解、教会のあり方を求めていくことがバプテスト主義であると思っている。そのためには、私たちの生きる現代社会における問題点を峻別すること、そして変えられないもの、変えなければならないものを丁寧に見分けて対応していく知恵と勇気が求められる。」今日のお話はこの簡潔、明瞭なメッセージに凝縮されていると思います。今日は、豊かな学びをすることができ、有意義なときを過ごすことができました。お忙しい中、お話をしてくださった朴先生に心からお礼申し上げます。

↑研修会の様子

朴思郁　所長

意見交換の時間→

［研修会レジュメ］

１．はじめに
＊わたしたちはどんな時代を生きているのか
「脱中心」、「脱境界」、「ハイブリッド(混種)」

２．今日におけるバプテストのあり方を考える
「戦後 70 年」そして「連盟結成 70 年」のもつ意味
「冷戦時代」以降の「新自由主義」「新冷戦体制」時代を生きる
「グローバル化」と「コスモポリタニズム」
「パラダイムの転換」

３．バプテストのアイデンティティー
プロテスタントの中のプロテスタント
時代における状況的特殊性(context specific)
批判的自己省察＝固定的ではなく(not fixed)形成されていく(becoming)ために

４．教会における「式文」の意味
「式文」を用いての教会形成
「神学する」ことの意味と重要性

「平凡な生活の出来事から、政治、経済、社会、文化、歴史の行方まで、信仰の事柄として受け止めて、自ら考え、自分なりの答えを見出す、そして「生の全領域において」その答えを受肉化していくことです」(全国壮年会連合月報、2014.2)
「良い神学者になるとは、(自ら)考える信仰者（Thinking Christian）になることである」ジョン・コッブ

５．おわりに
バプテスト主義とは、ある特定のモデルを再現することではない。常に、聖書の本質に照らし合わせて、その時代に最も相応しい福音理解、教会のあり方を求めていくことがバプテスト主義であると思っている。そのためには、私たちの生きる現代社会における問題点を峻別すること、そして変えられないもの、変えなければならないものを丁寧に見分けて対応していく知恵と勇気が求められる。

◇ 2015 年度神学校献金(目標 500 万円)のお願い◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。本年度も残り少ないですが、500 万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

◇ 募集中！東京地方壮年連合に参加しませんか◇

他教会の壮年との交わりの中で、仲間を知り、新たな自分を発見しませか？特に若手壮年を募集中、貴方の新鮮な取り組みやアイデアをお待ちしています。

※※

信徒伝道隊、信徒宣教者を派遣します！是非、ご連絡ください

連絡先　東京地方壮年連合会長　山田 誠一
Tel&Fax　03-3741-1181　E-mail： sei.shinkiai@gmail.com

※※

発行人：東京地方壮年連合会長　山田誠一
編集人：中村茂